

活動履歴と今後の予定

- 4/5 トヨタ財団助成キックオフ@大崎
 4/11 まちあるき&ごはん(お花見@台原森林公園)
 4/14 清水沢東災害公営住宅世話人会
 4/18 第1回理事会
 4/21 玉浦西キックオフミーティング
 4/26 コモンミールWG
 4/27 清水沢東ペット棟集会
 5/11 玉浦西・長谷釜地区意見交換会準備会
 5/12 清水沢東運営委員会
 5/15 第2回理事会
 5/21 清水沢東合同集会
 5/22 ひまわり会見守り隊打ち合わせ参加
 5/24 玉浦西・長谷釜地区意見交換会
 5/23-25 益城町仮設住宅自治会長らの東日本被災地視察アテンド
 5/26 まちあるき&ごはん(野草園)、清水沢東運営委員会
 5/29 コモンミールWG
 6/4 盛岡災害公営住宅支援打ち合わせ
 6/11 玉浦西・長谷釜地区生垣・菜園づくりWS
 6/18 復興住まいまちづくり学習会@熊本・益城町
 6/20 第3回理事会
 6/24 平成29年度通常総会・懇親会

あすと食堂
好評開催中です！

〈これまでの内容とこれからの予定〉
 4/9 あすと第二食堂(中華飯)
 4/16 あすと第三食堂(白身魚の野菜たっぷりあんかけ)
 4/22 あすと食堂(豆カレー)
 5/7 あすと第二食堂(おからハンバーグ)
 5/20 あすと食堂(丸森の筍づくし)
 5/27 あすと第三食堂(混ぜ寿司)
 6/18 あすと食堂(仙台白百合女子大)
 6/24 あすと第三食堂(ほっと亭)
 6/29 あすと第二食堂(グループひまわり)

お気軽に
ご参加
ください！

会員数
正会員 賛助会員
40 20

facebook
いいね!数
321

2017年6月1日 現在(前号比)

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町を拠点としつつ、そこで培われた復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動を進めていくためには、皆さまからの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願い致します。

継続的に応援するには

正会員又は賛助会員にご入会ください。
 ・正会員:年間6,000円・総会議決権あり
 ・賛助会員:年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

〈口座名義〉特定非営利活動法人つながりデザインセンター・あすと長町
 ●郵便振替:02230-8-121908
 ●銀行振込:ゆうちょ銀行 二二九支店(ニニキュウ) 当座預金 0121908

会員団体のみなさま

@グリーン(宮城大学ボランティアサークル) 安全安心なまちづくり 一般社団法人日本で・あて推進協会 NPO 法人クラブス
 NPO法人コミュニティ NPO法人 仙台傾聴の会 NPO都市住宅とまちづくり研究会 NPO 法人東日本カウンセリングセンター
 NPO法人東日本ネットワーク手にぎ隊 NPO法人 みやぎ「こうでねい」と 共立女子大学 高橋研究室 グループひまわり
 CASEまちづくり研究所 高齢者配食サービス「ほっと亭」 今野不動産株式会社 ざわざわプロジェクト 仙台南健康友の会
 つばさ薬局長町店 東北工業大学 新井研究室 東北工業大学 古山研究室 東北大学 東日本大震災PGT支援機構
 東北福祉大学 平泉研究室 東北学院大学 坂本研究室 都市建築設計集団/UAPP
 日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオ 日本ヨーガ療法学会 認定療法士会みやぎ
 みやぎ生活協同組合 宮城大学 森本研究室 有限会社栗駒建業

役員名簿

代表:飯塚 正広
 副代表:新井 信幸
 副代表:薄田 榮一
 副代表:平泉 拓
 理事:宮本 愛
 理事:大友 浪子
 理事:加藤 渉
 理事:森山 英子
 監事:坂本 泰伸

編集後記

第3号の特集は、つなセンが取り組むコミュニティ形成支援の柱の一つである、あすと長町災害公営住宅の集会所で展開されている「あすと食堂」でした。2016年11月に第一で始まったこの取り組みは、現在では第二・第三すべての集会所で実施されており、参加者はもちろんのこと、活動を支えてくださる方々も地域団体から学生たちまで、多彩な面々となってきました。お料理も運営も、今後が期待されます!(編集担当:正会員・田澤紘子)

特定非営利活動法人

つながりデザインセンター・あすと長町

〒982-0005 仙台市太白区諏訪町2番8-302号

TEL 022-748-6607

WEB www.tsuna-cen.com



ヒト・モノ・コトをゆるやかにつないでいく

03
2017.06あすと新聞
ASUTO NEWS

仙台白百合女子大学の栄養学科の皆さんは、専門知識を活かしながら「あすと食堂」の運営をサポートしてくださっています。

集まって食べるって楽しい！

ツナガリ学会開催

つながりデザイン会議開催

災害公営住宅にて居住実態調査を実施

【団体紹介】栗駒建業・NPO法人匠の右腕

活動報告

Main Topic



食堂で居場所づくり

仙台市・あすと長町災害公営住宅

1 「食」を通して孤立を防ぐ

つなセンでは、2016年11月から「あすと食堂」という取組みを行っています。「あすと食堂」は、第一、第二、第三災害公営住宅の集会所で、昼ご飯をつくらせて、みんなで食べる食事会です。第一市営住宅での月1回の開催から始まり、現在は、3つの集会所で1回ずつ(全部で月3回)開催しています。つくる側は、毎回お料理当番を決め、当番の方が、献立、材料の買出し、当日の段取り等を考えます。当日は、9時半頃から集まれる人が集まって、わいわいがやがやいながらつくりまします。お手伝いの方は、市営住宅



の住民の方、近隣のおばさま達、学生さん等様々。開店は11時半で、食べるだけのお客さんもちろん歓迎です。参加費は、つくる人も食べるだけの人も一人300円(こども・学生100円)。概ね材料費とトントンで、それ以外はボランティアの力で運営しています。あすと食堂の目的は孤立を防ぐこと。誰もが必要とする「食べる」ことを通じて、ご近所さんの集まる場に足を運び、顔見知りや友人を増やしていただくことです。今は、親子連れの方や子どもたちの参加がまだ少ないので、もっと顔を出してもらえるといいなと思っています。『交流』と身構えずに、ふらっと立ち寄り、たまたま隣の席になった人と二、三、言葉を交わして、食事だけ食べて帰れるようなハードルの低さを大切にしながら、地域の居場所の一つとして続けていきたいと考えています。



▲入居者に浸透してきたあすと食堂は、新しいコミュニティの中で大事な寄り合いの場の一つになっています。



▲つなセン会員の親子。親子連れの方にも気軽に参加いただきたいです！

2 若者も専門性を活かして参加！

学生さんの参加が多いこともあすと食堂の特徴の一つです。中心となっているのは、宮城大学のボランティアサークル「@グリーン(アットグリーン)」、仙台白百合女子大学の栄養学科の皆さん、東北工業大学建築学科の皆さんです。@グリーンは、あすと食堂開設前から、運営の打ち合わせに参加していただき、今も、ほぼ毎回、お手伝いに来ていただいている、あすと食堂に欠かせないメンバーとなっています。仙台白百合女子大は、授業で学んだことの実践の場として、学生さん自身が献立を考え、毎回栄養バランスの考えられたメニューを、マイ包丁持参で調理してくれています。なんと今年度は月1回、お料理当番を担当してくれる予定です。東北工大の学生さんたちは、外装、内装や受付周り等、調理以外で、あすと食堂のスムーズな運営にとても重要な部分を担ってくれています。若い人たちが参加してくれる効用はとても大きく、高齢の参加者の方からは「話すと元気が出る。」「若い人から新しいことを学べる。」「社会とつながっている気がする。」など、色々な感想をお聞かせします。つなセンとして学生さん達になにが返せるかも考えつつ、今後も一緒に様々なことに取り組んでいきたいと思っています。



▲栄養や健康を意識して作られる仙台白百合女子大学栄養学科の学生の皆さんの料理は、たっぷり食べてもヘルシーです！

会員
団体紹介
No.03

栗駒建業 NPO法人匠の右腕



栗駒建業は、今では数少なくなった大工さん自身が運営する工務店。プレカット部材でなく手刻みによる家づくりを続けています。手仕事が大切となるのは、建物を修理・リフォームして使い続ける場面。新築と違い、修理・リフォームでは一つ一つの建物の状態が異なるため、状況に応じて柔軟に対応する必要があり、そのため、人の手と技術が求められるそうです。しかし工務店の運営形態の変化等から、若い大工さんを育成する場が少なくなっているというのが課題ともなっています。そこで、代表の高橋さんが立ち上げたのがNPO法人匠の右腕。専門学校や大学と連携して、若い人たちが大工の仕事を知り技術に触れられる機会を提供しています。あすと長町の仮設住宅では、縁台づくりや底の設置など、仮設カスタマイズに取り組みました。つなセンで検討中の空き家活用事業でも力になってくれることを期待しています。

エフエムたいはく(78.9MHz)で毎月第2金曜日に放送中の「3.11からつなセンストーリー〜」(9:30-10:00)でも会員団体の皆さんをご紹介します。ぜひお聴きください！

Topics

ツナガリ学会開催 2/18

つなセンの活動に関わる卒業論文等(東北学院大、東北工大)の成果を公開してもらった「ツナガリ学会」を開催しました。災害公営住宅のコミュニティ形成に関する論文、見守りタブレット、集会所利用促進システム、シェアハウスをテーマにした制作の報告があり、30名程の参加者も真剣に聞き入っていました。意見交換では、公営居住者(70代男性)が「一人暮らしで1日誰とも話をしない日がよくある」と暮らしの実情を訴える場面もありました。ちなみに、この男性、これがきっかけで、あすと食堂に毎回のよう顔をされるようになりました。



つなガリデザイン会議開催 12/12・3/19

12月に開催したつなガリデザイン会議では「地域包括ケアとNPOの役割」と題して、石巻市包括ケアセンター長の長純一さん(つなセン会員)にご講演いただきました。わかりやすく地域包括ケアの要点を解説いただき、「タバコを吸うより、話し相手がいないことのほうが健康に悪い」というデータ等も示されました。3月に開催した同会議では、半年間のつなセン活動を振り返り、「あすと食堂」、「見守り支援」、「自主財源確保」をテーマに設定し、ワールドカフェ(自由にテーブルを巡回して協議する)方式で、今後を展望する意見交換を行いました。



災害公営住宅にて居住実態調査を実施

2016年10月、あすと長町第一・二・三災害公営住宅を対象に居住実態調査(327戸へアンケート)を行いました。また、2015年10月(入居半年後)に実施した同アンケートとの比較分析を東北工大新井研究室で行ってもらいました。その結果、日常的に会話する相手(家族以外)については、同じ建物内の人の割合が10ポイント以上増加しており、つなセンにとっても励まされる結果となりました。一方、暮らしの満足度については、ようやく住まいが確保できた安堵感から高評価を得た入居半年後から、少し低下の傾向を示しています。その要因は、被災前の暮らしや環境とのギャップにあるように思われます。より多くの方々が慣れ親しんで暮らせるよう、つなセンとしても、取り組みを充実させていきたいと考えています。

〈日常的に会話する相手(家族以外)〉

